

# ドル/円相場のトレード戦略

## 【ドル/円 週足】



### ■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半には108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り104円台にまで突入しました。

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み110円台を回復する動きとなって

# ドル/円相場のトレード戦略

います。

6月のFOMCでは本年4回の利上げ期待を高める内容となっており、また初の米朝首脳会談を無事こなしたことでアジアの地政学リスクも低下しており、ドル/円は底堅い動きが予想されます。もともと、米国を中心とした貿易摩擦の激化はドルの上昇抑制要因であり、この点を考慮すると年後半もレンジ相場が継続するという見方を大幅に変更する必要はないものと考えられます。

## ■短期展望

先週は、110円台後半でスタートしたものの、トランプ米大統領が2,000億ドル相当の中国製品に10%の追加関税を検討と報じられると、米中貿易摩擦が激化するとの警戒感から一時週安値となる109円55銭まで下落しました。

その後、のECBフォーラムでの講演でパウエルFRB理事が米利上げ継続に強気の発言をしたことからドルが買い戻され110円76銭まで回復しました。

週末に向けては米経済指標が予想を下回ったことなどもあり110円水準に押し戻されて週を越えています。

今週も先週同様に、米中貿易戦争への件がドルの上値を抑え、米国の良好な経済とそれを受けた利上げ継続期待がドルを下支えするという構図に変化はないものと思われま

す。先週は111円の壁が厚かったことを確認した形となっており、ややドルの上値が重い印象ということもあり、108円半ばから110円半ばのレンジを想定します。